

大妻女子大 前川 当子

1. 昨年総会時の家政学原論についてのシンポジウムは現代家政学原論を代表するものようであるが、その内容を吟味してみると、それぞれの論旨が、その出発の基盤において著しい相違点があることを指摘する。

2. 近頃、自然科学と社会科学、あるいは理科系文化と文化系文化との2つの文化が、全くことなつた世界をつくり、たがいに対話をかわすことがない、といわれる。この科学、文化の統合こそが、家政学の独自の分野であることを論究する。

3. 家政学原論と、家政学科の教科目について、とかく混同しがちであるが、原論は、根本的原理を論ずる部分であり、教科目は、それから導かれ、広義に発展したもので、実際的効果をも含んだ性質のものである。筆者が15校の女子大学、家政系の各学部各科目を調査した結果についての考察。

1については、家政学原論として、前提される科学的思考が、論者により、人間から、家族から、あるいは生活からというように異なり解釈の相違を生んでいる点、また、模倣や、“例えば、”が多いこと。

3については、家政学関係学科が、644科目あり、そのうち、謂ゆる家政学に關した科目15%について論ずる。